

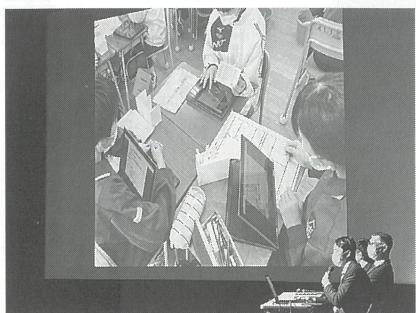
盛岡市教育研究所研究発表大会

第五十六回盛岡市教育研究所研究発表大会が、令和五年一月五日・六日、都南公民館・キャラホール、渋民体育館を会場に開催され、二日間で約三百八十名の先生方に参加いただきました。ここでは、全体研究発表及び分科会発表の様子について紹介します。

全体研究発表



全体会場（キャラホール）の様子



ICT活用に関する研究

4名の研究員からは、たく

今年度の全体研究発表は、「児童生徒の不登校対策に関する研究」、「小中学校におけるICT活用に関する研究」の2本を発表しました。どちらも盛岡市の喫緊の課題であり、昨年度から取り組んでいた研究です。

さんの実践事例が発表されました。どの事例も、アプリや画像等を有効に活用し、児童生徒が興味をもつて学習に取り組む様子が紹介されました。

なお、不登校対策の発表内容は、5ページにありますので、ぜひお読みください。
（アンケートから）

分科会発表

【学力向上（国語）分科会】

国語科で育む資質・能力を十分に理解し、言語活動を通して指導すること、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を関連させながら指導することの重要性について再認識することができ、大変充実した分科会となりました。

国語科で育む資質・能力を十分に理解し、言語活動を通して指導すること、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を関連させながら指導することの重要性について再認識することができ、大変充実した分科会となりました。



学力向上（国語）分科会

・調査結果を基に、生徒の資質・能力の向上を図るという目的が明確な授業提案でした。



学力向上（算数・数学）分科会

【学力向上（算数・数学）分科会】
「諸調査結果を活用し、課題を解決するための効果的な授業についての提案」が発表されました。授業改善例の発表と質疑を通して、内容や数学的活動等の系統性を基に、算数・数学の授業づくりについて説明をしていただいて、とても分かりやすかった。そして、それぞれの成果と課題も分かりやすくまとめられていて、これから自分の実践にいかそうと思つた。

・児童や生徒が言葉で交流しあうことにより、語彙を広げたり、考えを形成・再構築したりといった実践例を紹介していただきました。国語科で身に付けさせたい資質や能力を改めて確認させていただいだと思います。

とが分かりました。学校でもうことにより、語彙を広げたり、考えを形成・再構築したりといった実践例を紹介していただきました。国語科で身に付けさせたい資質や能力を改めて確認させていただいだと思います。

がどうございました。
・児童や生徒が言葉で交流しあうことにより、語彙を広げたり、考えを形成・再構築したりといった実践例を紹介していただきました。国語科で身に付けさせたい資質や能力を改めて確認させていただいだと思います。

いて具体的に考えることができ、大変充実した分科会となりました。

〔アンケートから〕

・学力調査の結果から正答率の低い問題を分析し、授業改善の視点とした授業の提案とすることで、小学校2提案、中学校2提案も、わかりやすく、説得力のあるものでした。

勉強になりました。

・算数では、常に一定数苦手な子がいる図形領域への、効果的なアプローチの仕方が実践で学べたので良かったです。改めて、学年、たてのつながりを意識し、9年間通じた指導を重視していきたいと思いました。

〔体力向上分科会〕

盛岡市の課題である「走力」に着目し、教育活動全般における走力向上取組の発表・実技研修、ICT活用の実践例の紹介がされました。複数の運動要素を取り入れた工夫あるウォーミングアップの重要性や指導の系統性を感じながら、楽しく遊び充実し時間となりました。

〔アンケートから〕

・研究員の先生方の、体力向上に関する実践について学ぶ



体力向上分科会

〔先人教育分科会〕

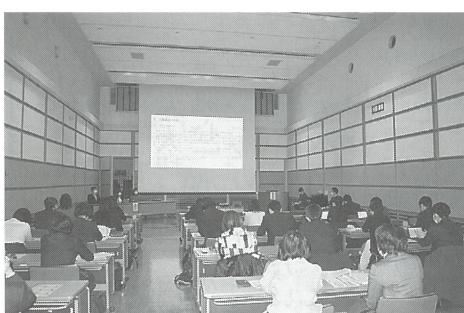
子どもたちに「夢」と「誇り」



先人教育分科会

〔アンケートから〕

・他校の実践を聞くことができ勉強になりました。先人学習に取り組むことは、自分の生活や生き方、考え方の素地をつくるうえでの学習の一つとして大きな役割を果たすと思いました。他教科や活動等と関連付け、連動させて、これからも取り組んでいきました



研究指定校中間発表

〔研究指定校中間発表〕

来年度に学校公開研究会を控えた東松園小学校、見前南中学校（いずれも令和3年度（5年度指定）の2校に、研究推進の状況について発表いたしました。他校より参会の先生方から御意見をいただきながら

・他校の実践を聞くことができ勉強になりました。先人学習に取り組むことは、自分の生活や生き方、考え方の素地をつくるうえでの学習の一つとして大きな役割を果たすと思いました。他教科や活動等と関連付け、連動させて、これからも取り組んでいきました

いと思いました。
・小中の連携を生かした素晴らしい取り組みがわかる、素晴らしい取り組みを深めるために、たくさんのアイディアが盛り込まれたW-up の方法をしり込みました。
・たまたま自然の中での一昔前なら自然の中で必然的に体を動かしていたのが、今はそれがない、というところから考えられているところに共感しました。

晴らしい発表でした。中学校での取り組みを深めるために、やはり小学校との連携が不可欠であること、小中の間の目的意識や目標を明確にしていくこと、発達段階を踏まえ、地域の財産を生かした内容を吟味し精選していくことが必要であることを実感しました。

ら、これまで2年間の成果と今後の取組の方向性について、確認がなされました。

〔アンケートから〕

・見前南中学校の「学びを深めること」を目的として、まさに子供を中心とした研究であると感じました。教科の壁を越えて研究されていることも、勤務校でも取り入れているので共感しました。

・東松園小学校の実践からユニーク・サルデザインの視点が目指すものがよく分かりました。また、誰でもどの学年でも分かりやすい授業ができる実践だと思いました。公開が楽しみです。

盛岡市教育研究所では、研究紀要を作成し、その成果の普及を図っております。今年度からは、PDFデータ版を各学校へ送付します（3月上旬予定）。

各学校における今後の研究推進に、ぜひ御活用ください。